

# 一人ひとりが輝くために 理想の成長環境を求めて

## ❖ ムーヴが見つめる日大藤沢の「つながり」

平成23年春、日本大学藤沢中学校（以下「日大藤沢」）一期生が中3に成長。3学年がそろいました。2クラスで始まった中学校は、現中2が、3クラス、そして今春の新生は4クラス。活気に満ちてきました。開校3年目にして、信頼と期待を集める神奈川私学の核。その堂々とした存在感は神奈川全域、そして東京でも目に届きます。ムーヴは、「理想の成長環境」を語るにふさわしい私学として見つめます。

\*

大規模な総合大学系列校が数少ない神奈川にあって、日大藤沢は、大学キャンパスに隣接し中高大の成長を見渡すフィールドです。アカデミックな気配に覆われる中学高等学校。それだけでも心惹かれるでしょう。

小田急線の六会日大前の駅からは、日本大学生物資源科学部のキャンパスを歩みます。まだ幼い中学生たちも、**真摯**に研究に努める研究者たちともすれ違います。駅からの歩みが

すでに成長ステージ。住宅街や繁華街を抜けるコースとは大違い。学習への姿勢も整います。ピュアな好奇心がわき起こる多感な成長期であれば、一流の研究の場から届く学問の香りを敏感に感じとるでしょう。「企業の研究所」のような冷たさは覚えません。緑に包まれる穏やかなキャンパス。グラウンドで伸びやかに駆ける生徒たち。クラブ活動の強豪校としても知れ渡りますね。小学生の諸君たちも、第一印象で「この学校に通いたい!」とあこがれる環境です。（ぜひ、ご一緒に訪ねてみませんか!）

\*

「大学進学時を考えると付属校は安心」。それも日大藤沢のアドバンテージです。でも、大学進学対応にスポットライトで照らすだけでは、日大藤沢の真価が陰に隠れてしまいます。

大学受験のためのトレーニングだけでは、生徒たちの好奇心も枯れ、寒々しい学校に陥ってしまうでしょう。日大藤沢はホットな学校だと思えます。

バランスの良い人格育成、学力鍛錬に努める学校だからです。そのための環境が整っています。

突出した校舎設備も魅力。さらに、「理想の環境」は人と人とのつながりに見いだしましょう。放課後には生徒たちが先生を囲んでいます。生徒たちが下校後は、遅くまで先生方が明日のために準備に努めます。大学の先生も小さな研究者たちに好奇心の種を授けます。生徒たちは、手を伸ばして受け取り、大切に育てます。高校生たちも中学生を兄弟姉妹のように声をかけています。

そして、一人ひとりが輝きます。

大規模・高スペックと語られる日大藤沢は、実は家庭的な気風が覆う学校です。それが日大藤沢の真価です。インテリジェントであってあたたかい。まさに、理想の成長環境ですね。

なによりも、周辺、そして小田急線でも見かける、**爽**やかな姿勢と朗らかな表情がその成果を示します。

## ❖ 心もあたたまるフィールドワーク

各地の学校で体験的なフィールドワークが取り入れられていますが、日大藤沢はその根底において一線を画します。

お隣の日本大学生物資源科学部が担う研究は壮大。仲間として過ごす動物たちの治療から、地球の生態系の保全に至ります。人類普遍のテーマ「食」を守る研究も世界レベル。その学問資産は中学生も誘います。広々とした実験農場は中学生にとっても好奇心の畑。動物たちとも心を交わします。食物の種・誕生から加工・調理まで、校内で経験できる学校なのです。

外来のプログラムを組み合わせずとも、自ら蓄えた文化・資産だけで十分に満たされます。だから、フィールドワークも日常。自然体で挑みます。そもそも、生徒たちは、入学時から日大藤沢のサイエンス環境に目を輝かせています。朝の通学から研究者たちのスピリットを吸い込んでいます。心の準備万端なうえ、「期待に応える学習」が与えられれば表情も生き生き! ですね。

「命」「食」が中学校のフィールドワークのメインテーマ。自分たちの手で取り上げた作物は、家庭に持ち帰り、食卓を彩ります。生徒たちは土のにおいも感じています。乳牛たちの表情も知っています。夕食時の話題も世界へ広がるでしょう。命の意義を心にとめ、食の大切さを確かめます。そして料理に心を込める保護者への感謝の気持ちも芽生えます。机上の学習だけでは決して得られない、心もあたたまる成長ストーリーです。私立学校らしい教育文化のたまものです。

# 日大藤沢、中学棟、24年9月完成!

## ❖ 一人ひとりが輝く学校 ～多彩な未来へ導く

理科好き少年少女にとっては心躍る学校ですが、分野を限らず、子どもたちが目指すさまざまな未来へ誘います。研究者の姿勢はどの世界にあっても生きるからです。誰もが輝く環境ですね。

中学段階では無理な先取り学習で追い立てず基礎基本に徹するカリキュラムです。でも、現在の中3生は、高校内容の話題に踏み込んで歓迎する余裕が備わっているとのこと。高校の特進クラス進学で、さらに高みを目指す準備が整っています。トップ国立大学を含めた難関大学への支援体制。どのような進路へもリード。その教育技術以前に、生徒たちを誘うあたたかいハートに期待しましょう。

日本大学の生物資源科学部への進学はもちろん、医学部や法学部など他学部への道も広く開けています。

## 日本大学藤沢中学校

〒252-0885 神奈川県藤沢市亀井野1866番地  
Tel:0466-81-0125

<http://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp/>



来年(平成24年)9月。地上5階建ての中学校舎が生徒たちを迎えます。現在の本館とは渡り廊下でつながります。

窓の高さ、洗面所の位置まで中学生用に細やかに配慮。広々とした廊下は、中学生のあふれる活力にふさわしい。自然の光と風で満たす健やかな設計。5階まで吹き抜け。1階の職員室には階上の生徒たちの声が届きます。生徒からは先生に目が届きます。人と人とのつながりを象徴するかのうよう。階上から声を掛け合う光景、屋外のテラスで語り合うシーン。今から目に浮かびます。設計段階から、「皆がつながる一体感」を覚えます。

+1階に大教室(700名収容)を置きます。1階に大きなスペースを置く柱の数が限られるため構造設計が難しいとされますが、皆が集うスペースへ滑らかに導く思想に妥協はありません。壁面構造の強化など、精いっぱい技術を投入し、耐震構造にも優れた校舎を実現します。

新校舎の詳細は学校説明会などでお確かめください。

- 入試説明会  
11月5日(土) 10:00~11:00  
11月26日(土) 10:00~11:00  
会場:本校隣接の日本大学生物資源科学部 体育館
- オープンスクール  
9月10日(土) 10:00~11:30  
申込期間:7月11日(月)9:00~7月16日(土)12:00

アクセス  
当校は小田急江ノ島線の「六会日大前」駅から徒歩8分。神奈川各地からも通学が容易なロケーションです。例えば…  
・田園都市線「あざみ野」より、中央林間経由 40分程度  
・小田急線「登戸」より、相模大野経由 40分程度  
・JR線「川崎」より、藤沢経由 40分程度  
・相鉄線「二俣川」より、湘南台経由 30分程度  
・京急線「金沢文庫」より、地下鉄、湘南台経由 45分程度  
ちなみに東京の八王子からでも1時間程度で到着します。